

Hello

2004

1
No.236

friends

KANAGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ 6-01 35c 1階 ☎045-896-2626

特集

伝えること、伝わること。

- 多言語情報を支える人たち -



誰に伝えるの？
なぜ伝えたいの？
どうやって伝えようか…？
「伝える」と「伝わる」って
何が違うのだろう？



街で外国語の情報を目にするが増え、行政情報もここに暮らしている多様な人たちの言語で発信されるようになってきた。日本語が母語でない外国出身の住民にとって、自分の言葉で生活に必要な情報を得ることは、生きていく上で大きな安心につながる。しかし、行政機関などがせっかく情報を発信しても、受け手に伝達されていないことがあるとの声も聞こえてくる。第2期外国籍県民かながわ会議では、最終報告で「情報伝達について、市町村やNGOと連携をとりながら、外国籍県民に確実に情報が伝わる方法を確立する」ことを県知事へ提言した(2002.10月)。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kokusai/seisaku/seisaku.htm>

今回は、外国出身の人たちに向けて発信される「多言語情報」を取り上げ、必要な人に必要な情報が伝わるためには、何が大切なのかを考えてみたい。

高校進学ガイダンス



多様な文化的背景を持つ子どもたちへ高校進学に関する情報を伝える相談会。多言語に翻訳されたガイドブックは、情報フォーラム(右端写真)でも閲覧できる。

さがみはら国際交流ラウンジ



さがみはら国際交流ラウンジ他、市町村にある国際交流ラウンジ・国際交流協会などでは、外国人向けの多言語情報紙を手にとることができる。

情報フォーラム



地球市民かながわプラザ 6-01 35c 2階・情報フォーラムには、外国人向けの多言語情報を集めたコーナーがある。わからないことはスタッフまで。TEL:045-896-2977

観

光・イベント・生活情報...様々な情報が多言語化され世に送り出されているが、それらは誰に向けたメッセージで、また手に取るのはどのような人々ののだろうか。そして、必要とする人に、彼らの求めている情報は的確に届いているのだろうか。それを知りたくて、結婚して日本に住み、外国人住民の立場から情報を発信している、さがみはら国際交流ラウンジ(以下「ラウンジ」)ボランティアの韓国出身の崔英善さんと中国出身の劉海英さんにお話を伺った。

伝わる、ということ

この1年、『voluchitta』で反響のあったテーマは「嫁と姑」。日本の事情と外国の事情を比べられる非常に良い企画だったと崔さんは言う。共感・批判、多くの反応が届いた。「どういう内容で、企画で作っていくかということが重要。どんなに良い内容でも読んでもらえなければ意味がない。それを一番大切に考えています。外国人だけでなく、日本人にも読んで欲しい」。外国人の目を通して書かれた内容には、日本人が気づかされることも多い。

配布場所にも、個々のボランティアのアイデアが活かされている。あるボランティアがフィリピン料理店に『voluchitta』を置いたところ、その店で目にしたフィリピン人がラウンジを訪ねて来たこともあるという。情報は足りない?という問いに、「情報はあると思います。だけど、必要なものがどこで手に入るのか、何を見ればよいのか、それが重要だと思います」という答えが返ってきた。

始まりは日本語教室

実際にボランティアとして情報発信の側に関わる外国人はまだまだ少ない。それについて劉さんはこう分析する。「結婚して日本に長期滞在する人、留学等、短期で帰国してしまう人など様々な外国人がいます。最初は、日本語を学ぶために、ラウンジに通ったり日

さがみはら国際交流ラウンジ

チェ ヨンソン リュウ カイエイ
崔英善さん・劉海英さん

ホームページURL <http://www1.odn.ne.jp/sil/>

さがみはら国際交流ラウンジは、相模原市より1996年に外国人の支援を行うことを目的として設置。在住外国人への情報提供、外国人及び外国人を支援するボランティアの活動、国際交流の場として様々な事業を展開。定期発行物は次の2つ。『ラウンジニュース』(日本語ルビ付) 『voluchitta(ボラチッタ)』(日本語対訳・8ヶ国語)



崔英善さん(左)と劉海英さん(右)



ラウンジはJR淵野辺駅南口から徒歩3分

本語学校に通ったりして、日本語が上手になったら、働く人も多く、また子育てや仕事...生きていくのが精一杯という人も。余裕がないとできないかもしれません」。また、多言語情報のボランティアはやる気だけでなく、「ある程度日本語ができないとつとまらない」と躊躇する人も多いという。

では、どうして二人はラウンジでのボランティアを始めたのだろうか。劉さんは「自分と同じように日本に来て困っている同じ国の人がいれば助けてあげたいからです」と言う。

一方、崔さんはこう言う。「活動が面白いからです。時には、活動の見返りを求める自分や、投げ出したいとき本当に投げ出しそうな自分がいます。だから、私は自分がボランティアだとは思っていません。持続的な活動にするために半分「仕事」だと思い、なぜ自分がこの活動をするのか考えています。時間があるときに自分のやれることをする、「仕事」と思って活動すると気持ちが楽になるかな」。

二人とも、ラウンジに関わるきっかけは日本語教室だった。ボランティアが日本語を精一杯教えてくれ、また生活のことにまで気を遣ってくれたという。そういう人たちの支えもあり、ラウンジを通じて友達もできた。「嫌なことがあっても、ここに来たら笑えるし、勉強させられることもある。日本の社会のことも分かります。これがラウンジで活動を続ける理由かもしれません」。そしてラウンジは

彼女たちの居場所でもある。

「ここに住む外国人はラウンジに来たがりです。だって『原点』だから。ラウンジに来たら安心できるし、だからみんな、はまっちゃうんだよね」。

当事者でなければ、語り得ない体験というものもある。だが、彼女たちの情報は、外国人が作ったものだから反響がある、というわけではない。そこに「伝えたい」という思いがあり、人と人のネットワークを大事にしているからなのだと思う。

いちばん大切なことはなに?

日本語の情報を単に多言語化して送り出す、それもひとつの多言語情報。しかし、「伝わる多言語情報」とは、人と人とのやりとりが介在しながら、自然と作り手が伝えたい相手の元へ送られていくものなのかもしれない。

ここに一枚の紙がある。その一枚の紙に、作り手自らの経験や思いを込めて語るとき、情報としての価値が生まれ、言葉は人に伝わっていく...

日本語併記の多言語情報紙も多い。多言語情報は自分には関係無いと思わずに、読んでみてはいかがだろうか。あなたがそこに関わることで情報の新しい流れが生まれ、必要とする人に届けられるかもしれないからだ。(S)

か ながわ多言語情報リスト

情報 フォーラム(1頁右下写真参照)で閲覧できる多言語資料の一覧を「情報の種別」「言語別」「発行者別」で見ることができます。

リストは、協会のホームページでご覧いただけます。

ホームページURL <http://www.k-i-a.or.jp/tagengo/tagengo.html>

情報 フォーラムでもプリントアウトしたリストが入手可能です。



高校進学ガイダンス

高橋清樹さん

多文化共生教育ネットワークかながわは、高校教師、外国人支援者などがメンバーのNGO。外国から来た子どもたちや親を対象に、高校進学ガイダンスを中国語、ポルトガル語、カンボジア語など10言語で開催している。入試の方法、学校の選択、高校のシステム、奨学金等についての多言語資料を配布し、通訳つきで参加者の相談にのっている。秋からは、横浜国際交流ラウンジで他のNGOと共同の「外国人のための教育相談」も開始した。



事務局の高橋清樹さん



自分の体験を伝える高校生たち

神

奈川に住む外国籍生徒のうち、高校へ進むのは約半数。日本人の9割以上が進学するのに比べかなり低い割合だ。日本語では氾濫している受験や進学に関する情報も、外国から来た子どもや親の元には届きにくく、せっかくの「在県外国人募集」*や「特例措置」*を知らないことも多い。高校へ進学するのがいいかどうかは個人によって違っだろうが、進学情報は人生の選択を左右する。そういう貴重な情報を外国出身の子どもたちに届け、届けた相手だった卒業生たちと一緒に活動している高校進学ガイダンスから、「伝わる」ヒントが得られるかもしれないと思い、淵野辺会場で事務局の高橋清樹さんに話をきいた。

地域と一緒につくる

ここ数年、他の都道府県でも同様の進学説明会が開かれるようになってきたが、神奈川の高校進学ガイダンスは9年目。もう定番行事になった。高橋さんは「地域の支援者たちと一緒にできたのが、活動を続けられたポイント」だという。

今年は、横浜駅西口、平塚の横内団地、相模原市淵野辺、横浜市いちょう団地の4カ所で行った。地域の支援団体が開催の受け皿になって、通訳の協力をしたり、一緒にガイダンスをつくっている。

「私たちが全部高校の情報を伝達するのは無理だし、地元の支援者が高校の情報をすべてカバーして流すのは無理だ」という。一緒に説明会を開くことで、地域の人たちにも受験や高校のシステムについて理解してもらえるようになる。何かあると連絡しあうので、子どもたちが直面している問題も伝わ

ってくる。次の年のガイダンスの情報を流すと、必要な人に「今年はいつあるよ」と伝わっていく。

親しい人から情報を手渡す

ガイダンスの参加者はしだいに増えていくが、それでも「在県外国人募集」に応募できる人の場合、まだ半数くらいだと高橋さんは嘆く。

アンケートによると、子どもたちがガイダンスの開催を知るのは、「中学校の先生」や「補習教室のボランティアの先生」が多い。より近い人から情報をもらうのが大事だ。先生がついてきてくれる中学校からは毎年生徒が来る。「信頼できる人が一緒に来てくれるのは、子どもが説明会に来る大きい要因だと思うんです。中学校の先生が来てくれると、地域の中学と高校の先生のつながりができて、副次的なメリットもあるかな。」と高橋さん。

今後は、通訳協力をしてくれるガイダンスOBなど、外国出身者にいま以上に参加してもらうシステムも構想中だ。周囲の外国出身の子どもにピラを渡して説明会参加を呼びかける、説明会に連れてきてもらう、その後の相談を受けてもらうの3つを柱としたチューター制度をつくり、それに対して謝礼を払えるようにしたいと考えている。

変わってきたこと

実績ができてからは、行政の協力も得られるようになり、教育委員会が学校に呼びかけをしてくれたり、ガイダンスに参加することが増えてきた。「在県外国人募集」を行う高校も説明に来るし、市町村の社会福祉協議

会は、就学資金の説明をして、相談にのってくれている。

以前はなかったことだそうだが、会場においてあった県立の定時制高校の説明会のチラシには、ルビがふられていた。ガイダンスに参加した教育行政の関係者に、子どもたちの様子やニーズが少しずつ伝わった結果、「外国人もどうぞ」とルビふりにつながったのではないかと高橋さんは考えている。

先輩から後輩へ

この日は、昨年のガイダンスに参加して進学した、フィリピンや中国出身の4人の高校生たちが、自分の体験を発表し、後輩の相談に乗っていた。

J君は、昨年、部活とバイトと勉強を全部こなす先輩の話聞いて自分もやってみようという気になった。希望通りの高校に進学できて、本人いわく勉強はさておき、バトミントンに明け暮れる毎日を送っている。中学と違って何でもできる自由を満喫していると語った。

Mさんは、J君によるとクラスで1番の成績。高校は楽しいけれど、友人と話すときに、今でも自分の日本語が気になって緊張するという。将来は、外国人生徒を助けるために学校の先生になるのが夢だそうだ。

他県では、高校進学をあきらめてしまう子どもがもっと多いという。「神奈川の場合、地域活動やガイダンスの積み重ねがあって、『高校って楽しい』と表明する先輩がいるから、みんな『自分も』っていう気持ちになって進学する子が多いんだと思う」と高橋さんは分析している。

とどまることなく、人と情報が一緒に動いている高校進学ガイダンス。必要な情報が必要な人の手に流れていっているのは、情報を発信するときに受信もしているからかもしれない。(Y)

*在県外国人募集:日本に来て3年以内の外国籍生徒を受け入れる特別枠を設けている県立高校がある。今年までは3校だったが、来年の受験から6校に増える。

*特例措置:小学校4年以降に日本に来た人には、時間の延長(1科目50分75分)、試験問題へのルビ振り、問題用紙の拡大、別室受験が認められる。ただし、在県外国人募集では使えない。

地球市民フォーラム2004「持続可能な暮らし」 2004年2月21日(土)・22日(日)

参加費 **無料**

私たちの暮らしは、何世代にもわたって人間が生活を営むことを前提にできているのでしょうか？ 私たちの生活に身近な環境を見つめなおしながら、持続可能な社会を子どもたちに手渡すために私たちにできることについて考えます。

【1日目:2月21日(土)のプログラム】

セミナー 14:30～16:30

テーマ:「地産地消を考える ～かながわの活動～」
ファシリテーター: 是永圭子さん(都筑区朝市応援団代表)、
岩室晶子さん(NPO『I Love つづき』副理事)
事例発表者: 横浜市農業関係者

【ワークショップ】

A 13:00～14:30 テーマ: ゴミはなぜ増える
講師: 羽角章さん(新しい環境学習を考えるネットワーク)
B 13:00～14:30 テーマ: スロービジネスをはじめよう
講師: ナマケモノ倶楽部
C 15:00～16:30 テーマ: 新アジェンダ21を活かすには?
講師: 金光律子さん(かながわアジェンダ推進センター理事)

【2日目: 2月22日(日)のプログラム】

買い物を通したワークショップ+パネルディスカッション
スーパーマーケット、オルタナティブトレードショップ、県内企業などに実際に来店していただき、買い物をしながら環境と消費の関

係を考えるワークシートの書き込み作業をおこなってゆくワークショップです。

コメンテーター: 辰巳菊子さん((社)日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント協会理事)、 鍋木孝昭さん(かながわアジェンダ
推進センター代表理事)

13:00～13:15 オリエンテーション 13:15～14:00 買い物ワ
ークショップ 14:00～16:00 パネルディスカッション
*12:00～ 買い物ができます。

映画上映会 2月21日～22日

終日、環境をテーマにした映画上映をおこないます。

上映候補作品: 『あぶない野菜』(PARC)、 『ジャビルカ』(ノー
ニユクス・アジアフォーラム・ジャパン)、 『地球環境紀行』(WWF)
など

写真展 2月17日～2月22日

県内のさまざまな「取り組み」を紹介する写真展を開催します。

場所: **オー・オー・355** 会議室、ワークショップルームなど
保育サービス有り(土曜13:00～16:30、日曜14:00～16:00)
2月5日(金)迄に要申込。こども1人1000円/時間

問合せ・申込先: 企画情報課 月曜休み

TEL:045-896-2896 E-mail:kikaku@k-i-a.or.jp

フォーラム これからの国際理解教育を提案する! ～「グローバル教育」と「多文化共生教育」をつなぐ～

多様な文化的背景を持つ子どもたちを対象とした「多文化共生教育」と、「日本人」の子どもたちが世界や地域を理解してゆくためのグローバル教育、国際理解教育は、多くの場合、別のものとして取り組まれてはいないでしょうか。このフォーラムでは、地域で学び育つすべての子どもたちが、地域と世界の成り立ちを理解し、互いを理解しあい、ともに生きるための実践の可能性について考えます。

第1部 ワークショップ 13:00～14:15

『移民』をテーマにした実践の新しい試み

講師: 中山京子さん(東京学芸大学附属世田谷小学校)
国立民族学博物館、全米日系人博物館などとの共同作業の経験をもとに、様々な博物館展示を活用したプログラムを紹介します。

第2部 パネルディスカッション 14:30～16:30

『モノ』と『人』の背後にあるさまざまな関係をどう学ぶか? 教科学習で、総合学習で、グローバル教育と多文化共生教育をどのように結びつけることができるのか。学校・行政・NPOのそれぞれの立場から話し合います。

パネリスト: 中山京子さん(東京学芸大学附属世田谷小学校)、宇土泰寛さん(東京都港区立三光小学校)、中津土識彦さん(三重県伊勢市立宮川中学校)、金順玉さん(横浜コリアン文化研究会)、三ツ木純子さん(川崎市教育委員会)
コーディネーター: 森茂岳雄さん(中央大学文学部)

同時開催!! グローバル教育-多文化共生教育関連の教材・教具展

日時: 2004年1月31日(土) 13:00～16:30

場所: **オー・オー・355** 会議室 参加費: 無料

申込み: 名前、連絡先、所属などを明記し企画情報課まで 月曜休み

TEL:045-896-2896 FAX:045-896-2945

E-mail:kikaku@k-i-a.or.jp

文化庁地域日本語コーディネーター養成講座 「多文化ソーシャルワーカーのイメージを磨こう」

日本語教育や外国籍児童生徒の学習支援に携わるNGOスタッフ、日本語指導協力者等を対象に、外国籍児童生徒を持つ家族の教育・生活課題の解決に向けて、NGOと学校・地域の公的機関の橋渡し役となるコーディネーターを養成する講座です。

日時: 2004年2月14日(土)～15日(日)

10:00～17:00(両日とも)

【2月14日(土)】

多文化ソーシャルワーカーとは何か

講師: 石河久美子さん(日本福祉大学助教授)
学校とNPOの連携について

～文化庁親子日本語モデル事業の事例を通して～

講師: 金子正人さん(横浜市立いちよう小学校)、
櫻井ひろ子さん(かながわ難民定住援助協会)、
関口明子さん((社)国際日本語普及協会)

【2月15日(日)】

リソース型日本語の活用法・年少者を対象とした日本語教育の考え方など

講師: 関口明子さん

ふり返りのワークショップ

講師: 西野博之さん(NPO法人スペースたまりば)

場所: **オー・オー・355** 会議室 定員: 30名

問合せ・申込先: 名前、連絡先、所属などを明記し
企画情報課まで 月曜休み

TEL:145-896-2896 FAX:045-869-2945

E-mail:kikaku@k-i-a.or.jp

地球市民学習地域セミナー in 小田原 「新・貿易ゲーム」ワークショップ

「新・貿易ゲーム」は、あらかじめ与えられた「資源」から「製品」をつくる作業を通して、国々の貧富の差が広がっていく過程をリアルに体感できる新しい国際理解教育の教材です。

このワークショップでは、「新・貿易ゲーム」を実際に体験し、学校の授業などでどのように使うことができるか考えます。ほかに地球市民学習に関する情報提供などもおこないます。自分自身が参加し、感じ、学んだことを教室に持ち帰ってみませんか。

講師：湯本浩之さん((特活) 開発教育協会事務局長)

日時：2004年2月14日(土) 10:00～12:00

場所：小田原市中央公民館 第2会議室 (小田原市荻窪300 TEL:0465-35-5300)

定員：40名(申込先着順)

対象：教育関係者、NGO関係者など

参加費：無料

申込方法：氏名(ふりがな)、所属(学校名や団体名)、連絡先(電話、FAX、E-mail)、「2月14日地域セミナー申込み」と明記し、電話/FAX/E-mailでお申込みください。

参加いただけない場合のみ、こちらからご連絡します。

問合せ・申込先：企画情報課(担当:山内) 月曜休み

TEL:045-896-2896 FAX:045-896-2945 E-mail:kikaku@k-i-a.or.jp

後援：神奈川県教育委員会、小田原市教育委員会



2003年度・第5回 「食と暮らしの体験セミナー」

「食」とおとして、世界の様々な土地の暮らしや風土を紹介するワークショップです。

日時：2004年2月8日(日)(予定)

場所：あーだ 355 1階 料理室他

内容：家庭料理体験と会食のあと、遊びや工作、踊りなどの体験プログラムや質問コーナーなどがあります。第5回のテーマについてはお問合せください。

対象：小学生～高校生

親子参加も可能

定員：25名程度(要事前申込み)

参加費：食材費800円程度

その他：希望により幼児保育あり

協力：かながわこどもひろば他

問合せ・申込先：

地球市民学習課 月曜休み

TEL:045-896-2899

FAX:045-896-2945

E-mail: kakeshin@k-i-a.or.jp

2003年年度ことばと文化セミナー 「皆で踊ろう!サルサ!!」(初級～中級向け)



サルサは、キューバを発祥地とし、中南米各地で様々なスタイルで踊られているダンスです。初心者でも気軽に始められ、年齢・性別を問わず楽しめるダンスとして、近年日本でも人気が高まっているサルサ講座を通して、中南米の文化に触れてみませんか。今回は、「少し踊ったことがある」「本格的に習ってみたい」という方にぴったりの講座内容になっています。

期間：2004年1月8日～3月25日 毎週木曜日 全12回
19:00～21:00

場所：あーだ 355 1階 創作スタジオ

受講料：20,000円(税抜) 定員:20名

服装：動きやすい服・靴、タオル

講師：セノビア先生(ボリビア出身のダンサー。ボリビア国立舞踏団を経て独立、日本とボリビア両国でダンススタジオを主宰し、南米各地の民族舞踊を教えている)

問合せ・申込先：国際協力課(担当:富本) 月曜休み

TEL:045-896-2964 FAX:045-896-2945

E-mail:tomimoto@k-i-a.or.jp

新しい地球市民学習教材ができました みんなで作ろう!ペーパークラフト 「チャークリンくんの家」

チャークリンくんは、タイのアユタヤ地方に住む、10歳の男の子です。三輪タクシー運転手のお父さん、ラジオの部品工場でお母さん、幼稚園生の妹と暮らしています。

あーだ 355 には、チャークリンくんの家を再現した実物大の家屋があり、実際に中に入って、家族の暮らしぶりを見ることができます。

神奈川県国際交流協会では、教育関係者やNGO関係者の皆さんにボランティアとしてご協力いただきながら、チャークリンくんの家のペーパークラフトを開発しました。

大きな窓がたくさんある風通しのよい造り、部屋にこもった熱を上に逃がす高くとがった屋根、飲料水に使う雨水を貯めておける大きな水瓶など、工作を楽しみながら、高温多湿のアユタヤ地方の伝統的な暮らしの知恵や工夫を見つけてください。

対象年齢：小学校5年生以上(小さな子どもは大人と一緒に)

頒価：300円(郵送希望の場合は、送料込み460円を郵便局で振込んでください。)

郵便振替口座：00240-0-2675

財団法人 神奈川県国際交流協会

通信欄に「チャークリンくんの家」と記入のこと

問合せ：国際協力課 月曜休み TEL:045-896-2964



写真は、試作品のため、実物とは多少異なります。

21世紀の地球を考える展

油まみれのペンギン、酸性雨で荒廃した森、地雷の犠牲になった少女、難民キャンプ、そしてチェルノブイリ原発...



流出した油まみれになったペンギン
[1990~2000年頃 南アフリカ]
c Gallo Images/Corbis Japan

「21世紀の地球を考える展」では、20世紀が生んだ、自然破壊、大量生産・大量消費、核戦争、差別・迫害、難民、貧困など、21世紀のわたしたちが地球規模で考えていかななくてはならない問題をとらえた写真約100点を、写真集『百年の愚行』より展示します。いっしょに考えましょう、地球の未来。

期間：2004年2月1日(日)~2月22日(日)
月曜日休館 9:00~17:00

場所：あーお 3階 企画展示室

入場料：無料

写真協力：株式会社コービス ジャパン、
マグナム・フォト東京支社

協力：Think the Earth プロジェクト

問合せ：地球市民学習課 月曜日休み

TEL:045-896-2898

ご協力ありがとうございました 草の根国際協力応援バザー

神奈川県国際交流協会では、去る11月30日、かながわ民際協力基金への寄付募集を目的として「草の根国際協力応援バザー」を開催しました。あーお 3階で6回目を迎えたこの催しには、今年も多くの方々から物品の寄付が寄せられ、また食品メーカー等の協賛も得て、当

日は、約250人の来場者で賑わいました。

今回の売上げ334,480円は、すべて「かながわ民際協力基金」へ積み立て、NGOが行う国際協力活動を支援するために、有効に使わせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

国際理解・国際協力のための作文コンテスト 中央大会入賞のお知らせ

2003年度国際理解・国際協力のための作文コンテスト神奈川県大会で優秀賞を受賞した酒本雄一さん(横浜国大教育人間科学部附属横浜中学校3年)の作文作品『異文化を越えて』が、(財)日本国際連合協会主催の、第43回「国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト」で、特賞(4名)にあたる(社)日本ユネスコ協会連盟会長賞を受賞しました。酒本さんは、2004年3月頃、1週間程度の日程で、米国ニューヨークの国際連合本部視察、国連関係者との懇談等を行う予定です。

酒本さんは、シンガポールに3年間住み、ム

スリムと接した体験から「イスラム教徒と聞くと、テロリストをイメージし、怖く感じる人もいるのだが、僕はそれを悲しく思う。実際に彼らと接してみると、優しい親切な人の多いことが分かる」と、訴えています。自らの経験に基づき、自分の言葉で語られていたことが高い評価を受けることにつながったようです。

国際理解・国際協力のための作文コンテスト神奈川県大会は、神奈川県国際交流協会(日本国際連合協会神奈川県本部)が主催しています。来年度もたくさんのご応募をお待ちしています。

会員大募集中! 入会受付随時

入会方法

神奈川県国際交流協会の事務所で申込み郵便振込みで申込み

口座番号 00290-9-14928

加入者名 (財)神奈川県国際交流協会

通信欄に生年月日、職業(学校名、学年)をご記入ください。

振込人住所氏名欄は必ずご記入ください。お名前にはフリガナをお願いします。

年会費 一般 3,000円から

学生 1,500円から

団体 10,000円から

会員になると...

協会主催の各種催しやNGOの催し情報、ボランティア情報を定期的にお届けします。会員対象の催しへご招待します。これまで映画会など開催しました。

各種割引サービスが受けられます。

提携エスニックレストランで割引

あーお 3階 レストラン「メルヘン」で割引

フェアトレードショップ「ベルダ」で割引

協会出版物の無料提供・割引

より詳しい資料をご希望の方は、

国際協力課

TEL:045-896-2964

E-mail:minsai@k-i-a.or.jp

までお問合せください。

神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人のつながりを大切に「国際交流」「国際協力」を推進する様々な事業を展開しています。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

Hello friends

2004年1月1日発行
第236号

発行/財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ケ谷一丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
☎045-896-2626 FAX.045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp
印刷/吾妻印刷株式会社

なぜボランティアをするのか。自己実現のため、誰かの喜ぶ顔が見たいから。人によって様々な答えがあるが、実際行動に移せる人というのは、誰かの身に起った問題を自分の問題として捉え、また、誰かがいつかしてくれる、という考えから、自分が今しなければ、という発想へ変えられる人だと思ふ。「気づき」の場を与えられ、問題意識が芽生えたとき、自分を変えてゆけること、そして周囲の声や流行に流されず自分を変えずにいること。実はそのどちらも難しい。昨日のことすら曖昧な生活の中で、自分がここに在る理由等大事なことを忘れてしまつたときがある。「原点」を見失わず、変わらずに、でも変わつてゆくことができるだろうか。

(経営管理課 須磨珠樹)

キャラバン・サライ

二丁ズを分析し、丁寧に翻訳し、パンフレットやホームページを完成させて世に出して、ハイ終了!とはいかないのが、情報伝達の宿命なのだろう。さがみはらのラウンジで、たくさん紙を出されたつて外国人は訳わかんない。それより生の言葉が好きだから、と来館者に話しかけるボランティアの催し。毎年、県内の各地へ繰り出すほか、受け手の二丁ズをくみ上げながら情報提供する仕組みを創り出している高校進学ガイダンス。資料を作成してからが始まりだ。

いろいろ耳が痛い取材だった。協会の声はどこまで届いているのだろうか? 今回の特集へのご感想ご意見もぜひ歩きながら聞いていきたいと思つてい

(企画情報課 山内涼子)

キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった隊商宿。文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。